

# 女子短大生の通学服における意識および実態

○寺林幸子 高野倉睦子 長野智子 (昭和学院短大)

## 【目的】

パレオなどのリゾート着や、危険性が指摘されている厚底サンダルの流行にみられるように多様化するファッションを、女子短大生がどのように通学服に取り入れているかを明らかにするために、通学服に関する意識と実態について調査した。

## 【方法】

女子短大生合計264名を対象とし、無記名式の質問紙を使用して集合調査法により、平成11年10～11月にアンケート調査を実施した。調査内容は、通学服のイメージ、36種目に着目し、基本属性2項目、通学服に関する意識4項目と実態9項目の合計15項目。調査結果はクロス集計、因子分析により解析し、考察した。

## 【結果】

1：通学服と外出着を区別していない人が約80%であった。2：通学服のイメージを因子分析により解析した結果、モダン、エレガンス、カジュアルの3因子が抽出された。3：36種目について通学服としてふさわしいか、通学服として着用したことがあるかについてクロス集計を行った結果、①：ポロシャツなどはふさわしいと思うが着ない、②：ジーンズなどはふさわしいと思うので着る、③：パレオなどはふさわしくないので着ない、の3グループに分類された。4：通学服を褒められたことがあると回答した人は約38%で、そのうち女友達から褒められた場合が最も多く約38%、次いで、母親、学校の先生、アルバイト先の人の順であった。